パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会　会報　　２０１８年１２月１日　１８３号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

レダ産パクーの販売に励む、岩澤春比古氏

レダ産のパクーを歓迎するパラグアイ人

レダ開発も来年の八月で二十周年を迎えます。これまで、いかにレダの産物を販売し、経済的に自立して行くかが大きな課題であり、レダ開発に携わるすべての者たちの願いでした。すでに牧畜においては子牛を販売することにより、事業単体ベースでは自立経営ができていましたが、レダ開発全般のコストを賄うにはまだまだ力不足でした。

私自身まだ短い期間ですが、レダでパクーの養殖に直接携わり、今回アスンシオンでパクーを販売してみて、多くを学ぶことができました。プロジェクト提唱者ムーン師は南米大陸において、パラグアイ水系、アマゾン水系、パラナ水系等で淡水魚の釣りに取り組み、こよなくパクーを愛されました。私たちはムーン師の理念を継承し、二〇一〇年からパクーの人工孵化を含む完全養殖をしてきました。そして販売をしてみて、レダで養殖されたパクー成魚は、他のパクーとは本当に違うことを実感しました。

今まで多くの人が試食しましたが、魚臭さが少なく、開いて見るとほのかに黄色とピンク色がかった綺麗な白色をしていて、腹身はよく脂がのっています。パラグアイ人も昔から、パクーをピンタードと共にパラグアイの本当に美味しいグルメ魚として食べてきました。ところが今まで私はアスンシオンで有名なレストラン、ホテル、ショッピングセンター、魚店など40軒近く訪問しましたが、ピンタードと外来種ティラピアの料理はあっても、パクーの料理を見ることはほとんどできませんでした。

それは後に分かったことですが、パラグアイ政府が世界最大のイタイプダムをブラジル政府と共同で建造した時、環境を破壊したことへの償い、見返りとして、政府が主体となってピンタードとティラピアの大きな養殖場を造ったからです。その一方で、アスンシオン近郊パラグアイ川沿いにパクーの養殖場を造った人たちは、洪水などで皆事業に失敗してしまいました。

今現在、顧客が13軒ありますが、そのうち3軒で私たちのパクーを使った料理をメニューに入れようとしています。近い将来、パクーと言ったらレダ、日陽園だと言われるくらい有名になることを確信しています。

今回のパクーの販売が、レダで自然放牧された豚の肉、有機栽培されたタロイモ、更にパンタナールの豊かな牧草で育った牛などが本格的に販売されるための、最初の力強い一歩となるように願っています。

二〇一八年十一月十三日

岩澤春比古

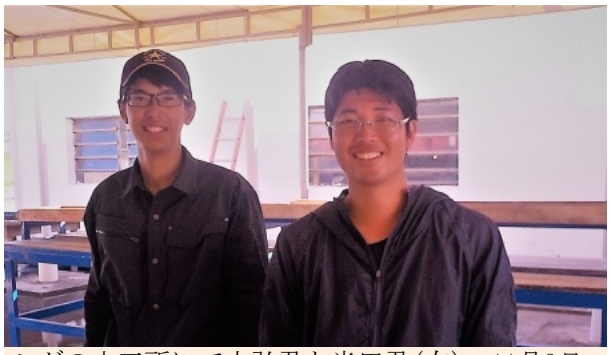
今、レダ基地は

青年指導者2名と岩澤さん母娘もレダへと出発。10月29日

土弘君(左)が中期ボランティアとしてレダへ出発。10月23日

高橋さんの初ドラドは67cm、4.2kg。

高橋賢作さんが釣った40匹目のパクー。



レダの木工所にて土弘君と米田君(右)。11月9日

雨の日も豚の世話に、米田君と諏訪君。

タロイモ田にて、諏訪君(右)と米田君。

事務所に新しい部屋を造る工事。11月9日

七面鳥の母鳥がたくさんの雛を孵す。9月9日孵化

養殖池のほとりは、アジサシの休憩所。

12月には熟します。11月9日

チャコ地方の春、広大な草原が花で埋め尽くされる。9月27日撮影

Short Essay

パンタナールの生きものたちと出会って（12）

★タイランチョウ（太蘭鳥）

タイランチョウは、タイランチョウ科の鳥類全般を指し、英語でTyrantという。専制君主という意味である。自分の気に食わない鳥が接近すると、攻撃的に追い払い、たとえ自分よりも大きな鳥であっても、果敢に向かって行くほど気が強いものがいる。人間に向かってくることはないが、人が接近しても、スズメ科やアトリ科の小鳥のようにさっと飛び去らないので、近づきやすい。種によっては一メートル以内にまで接近できるほどで、撮影も容易。バードウォッチングには好都合である。ここでは、短期のレダ訪問者がほぼ確実に出遭える種を挙げてみた。勇敢で愛らしい姿の「専制君主」たちをご覧あれ。

キバラオオタイランチョウ

●キバラオオタイランチョウ　タイランチョウたちの親分のような風格がある。体が大きく、腹部が黄色であることがそのまま和名になっている。鳴き声は、聞く人にもよるが、「ビッチョクエ」と聞きなせる。「虫を食え」と言っているようだ。（虫をスペイン語でビッチョという）

川で釣りをしていると、キバラオオタイランチョウがそばでじっと見ていることがある。釣り餌を追ってくるほどだから、小魚も取って食べるのであろう。アセローラの赤い実を丸飲みするのを見たこともある。持ち前の細いくちばしでは、なかなか飲み込めなくて苦労していた。なぜつついて食べないのだろう？

●ウシタイランチョウ　下段のオリーブタイランチョウを優しくしたような姿である。尾羽の先が二つに分かれていないので、これを知れば容易にオリーブタイランチョウと区別できる。しばしば牛や馬の背に乗って、ダニなどの寄生虫を捕って食べる。大型哺乳類や爬虫類を恐れず、歩く人間にも付いて来ることがある。筆者は20cmの至近距離まで接近したことがあるほどだ。タイランチョウ科の中では、最も親しみやすい小鳥だろう。

ウシタイランチョウ

●シロタイランチョウ　白いボディーに黒いストライプ入りの翼。おしゃれでスポーティーな装いである。白いので遠くにいてもよく目立つ。タカなどの標的にならないか心配だが、地面に白い羽根が散らばっているのを見たことはない。虫を捕らえるとき、得意のホバリングを見せる。小枝に止まって、尾をピコピコ振る姿が愛らしい。洗濯場のもの干しロープがお気に入りの場所だ。

シロタイランチョウ

ベニタイランチョウ

●ベニタイランチョウ　大変よく目立つ赤い小型のボディーを持つ。メスと幼鳥は赤褐色の地味な色合いだが、オスは成長するにしたがい、真っ赤な羽が増えてくる。まるでぽっかりと咲いた赤い花のようである。バードウォッチャーたちには特に人気が高い。野山に棲む個体は警戒心が強く、何かひと工夫しないとなかなか近づきにくい。しかし、人家の付近のベニタイランチョウは人馴れしていて、比較的容易に観察や撮影ができる。スペイン語名を「チュリンチェ」というが、その名の通りに鳴く。子連れでいることはあるが、群れを見たことはない。

●オリーブタイランチョウ　胸がオリーブ色である。英語では、Tropical Kingbirdという栄えある名をもらっている。電線に止まって虫を探し、見つけるとパッと飛び立って空中で虫を捕らえ、また電線に戻る。これがアクロバットショーのようで、見ていて楽しめる。あるとき怪我をして飛べなくなったオリーブタイランチョウ（写真・上）を保護したことがある。数日後からよくなつき、与えたピーナッツ大のコガネムシを丸飲みである。残念ながら毎日旺盛に食べてくれた。この美しい小鳥はかごの中から盗まれてしまった。もう少しで飛べたのに、残念である。

オリーブタイランチョウ

●ズグロエンビタイランチョウ　長い和名のタイランチョウだが、とても長くエレガントな尾羽を持つ。この長い尾は何の役に立つのだろう。ホバリングをするとき、空中で長い尾がひらひらと揺れて優雅ではある。上の写真はオスだが、メスの尾羽もオスの半分ほどの長さがある。群れで電線に止まっているのをよく見るが、餌は地上に降りて採っている。全種ともスズメ目タイランチョウ科（小田記）

ズグロエンビタイランチョウ

世界で始まったプラスチック廃棄物対策

ボリビア、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンを流れる国際河川、パラグアイ川。その流域に住めば、プラスチックごみがほとんど絶え間なく流れて来ることに気づきます。このゴミは、河川の生態系を脅かすことはもちろん、海洋に流出して、地球規模での生態系に深刻な影響を与えかねません。

以下、ニューズウィーク日本版本年七月十二日号記事「**世界の海洋プラスチック廃棄物の九割は、わずか10の河川から流れ込んでいる**」よりの引用です。

「プラスチック廃棄物が海洋に流出し、海洋生態系を脅かすようになって久しい。現在も、世界全体で一年間に八〇〇万トン規模のプラスチック廃棄物が海洋に流れ込んでいるとみられている。（中略）

世界ではじまったプラスチック廃棄対策

いわずもがな、海洋に流出するプラスチック廃棄物の量を減らすことこそ、プラスチックによる海洋汚染の防止につながる最も有効な対策だ。

地球環境保護に先進的に取り組む米シアトル市では、二〇一二年からプラスチック製レジ袋を禁じているほか、二〇一八年七月一日、飲食店に対してプラスチック製のストローや容器、カップなどの消費者への提供を禁じる条例を定め、世界的な注目を集めた。

一方、欧州委員会では、EU加盟国に対して、プラスチック製レジ袋の消費量を二〇一九年までに二〇一〇年比で80％削減するよう求めている。

また、新興国でも、同様の取り組みが始まっている。東アフリカのケニヤやルワンダでは、すでに、レジ袋を禁じる法律が施行されている。

また、インドでは、二〇一六年三月に『プラスチック廃棄物マネジメント法（PWM）』を定め、レジ袋の規格に制限を設けたほか、プラスチック廃棄物の回収・リサイクルの推進に国をあげて取り組んでいる。（後略）」（引用終わり）

記事のURL：https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/07/910_2.php

この記事の第二ページに、Plastic Ocean-UNという動画があります。"Plastic is terrible because plastic is durable."（プラスチックは恐ろしい。プラスチックには耐久性があるから）というナレーションで始まり、続いて海洋学者が海鳥の胃の中身を見せるシーンは衝撃的です。視聴をお奨めします。

Plastic Ocean-United Nations　https://youtu.be/ju_2NuK50-E

冬、シモバシラの氷花を見に行こう！

シモバシラという植物があります。冬になると地上部は枯れますが、根は引き続き生きて、土から水分を吸い上げます。この水分が、ひび割れた茎から徐々に滲みだしては凍り、氷花が成長して行きます。

同様の氷花は、シモバシラのほか、同じシソ科のカメバヒキオコシ、カシワバハグマ、キク科のアザミなどにも見られます。夏・秋の間に植物の花を見つけておき、冬を迎え、一日の最低気温が氷点下になったら、早朝に見に行けばよいのです。

シモバシラの場所を知らなくても大丈夫です。例えば、奥高尾や宮ヶ瀬湖畔の高取山に行けば、しゃがんで氷花を観察する人が見つかるでしょう。

冬の訪れとともに咲く氷花は、自然の芸術です。そして神秘的です。この冬は、子どもたち、孫たちと氷花探しを楽しんでいかがでしょうか？

シモバシラにできた氷花

融けないうちに見に行こう。

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口３－１１－１５
岩崎ビル４Ｆ

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）
記号10280　番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com
ホームページ：https://asd-nsa.com
Facebook:https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員種別

♠会員一口1000円／月
♠特別会員一口１万円／月
♠法人会員一口１万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座　ゆうちょ銀行
00290-5-113072
加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集

ヒメヤママユ

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局：office@asd-nsa.com へお願いします。